

北越雪

農商務省
圖書
和
第
二
卷
共
五
冊

大政官文庫
和
書
門
一
一
一
六
〇
七
冊
架
函
號

內閣文庫
和
書
類
一
一
一
六
〇
七
冊
架
函
號

內閣文庫	
番號	和 11160
冊數	7 (2)
函號	175 80

編中之卷



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



北越雪譜初編卷之中

目錄

雪類人小災屯 次第下ふく

玉山翁の雪の圖

縮の種類

織婦の發狂

御機屋の靈威

菱山の奇事

狐火

雁の代見立

雁の代見立

寺の雪類

越後縮

縮の紵並紵績

織婦

御機屋

縮を兩毛並縮の市

雪中花水祝い

秋山の古風

狐を捕る

天の網

明治九年購求

雪譜卷之中

目

大英堂藏

雁の總立

通計二十四條

滋海川ぎの渉り

三言書卷之六

文海堂藏

北越雪譜初編卷之中

越後塩澤

鈴木牧之 編撰

江戸

京山人面樹 刑定

○雪類人ふ災也

吾住魚沼郡の内にて雪類の為小非命の死をうける事其村の人のまをを
 てふ記をあるまじき人の不祥あるまじき人名を詳ふせば○てふ何村とてふ取小家
 内の上下十人あまりの農人あり主人は五十歳をり妻は四十小とて世息ハ二
 十あまり娘ハ十八と十五といふとも孝子の聞ありけり一年二月のオドめ主
 人ハ朝より用ある取出行へ其日ハ己申の頃あるまじき取りきこふまの聞を
 くるべき用あるまじきけり家内不審なるに忤家僕をつきて其家ふりて
 父が事をたづねふていきていびといふまじきけりていふまじき家僕と
 そりて尋求へくと更小音問をきこむ日もそり暮るんとていふまじき家ふ飯

三言書卷之六

文海堂藏

りあつてのよー母ふ語りけりて心持ぬるもて心あすの処かて人を走
 らせて尋させけふふと在家さうふまじ其夜四更の頃ふりて主人の飯
 らび此事近隣ふ聞えて人の集り種々ふ評議して居るをりも一老夫来り
 ていあうあうのええぬぬとや我心あすりのさあゆあをせすきんとて来
 まりとのふまはてうあすりてきて主人の妻大ふよろこび子どもらもてい
 言語をそろへてまづ礼をのべその仔細をいれ給けまば老夫いやうとて
 西山の嶺半ふきからんを一時このあすふ行逢何方とてい給けまば稻倉村
 へ行と行過ぬぬ我の宿飯り足あて遠不行過る頃例の雪類の音をききて
 うるづの山をんと嶺を無事ふ通りてまうてびふつけまのあすふ
 無難ふ行過ぬぬや方一ふさふ逢はぬまうとて案づて宿へるぬ今ふ飯
 りぬぬぬぬやまじふふのひて眉を皺めけまば親子の心あすりてき
 一ふも案ふふのひて顔見あせ泪さへむむとて老夫いてをえとていふ

立之のぬ集居る若人てをてをてまてまてまの処ふいさたづも
 炬こり入よるぬ雪類まじまじの老人のりあへてまづまらひ遠くたづ
 福ふ行一者まじまじかて今あもその人とかまてあすの飯りなすんも
 たりりて雪類ふてまてまてまの不覚入ぬぬをかの老奴めまじま
 てをいひて親子の心をまてまの親子いてまふ励まて心慰酒肴を
 いづて人ふまていてををて皆打多まつ炉辺ふ座列て酒酌さうや時うり
 て遠く走る者ども立うりふ行方ハ猶まじまじりり○かくて夜も明けま
 村の者どもいさう聞一やどの人此家小群り来り此上ハとて手あく木鋤
 を持家内の人も後ふまていづかの老夫がいつてまの処ふ至りけりまて
 雪類をふるふさのこゆあぬまてのまじまじ道を塞する二十間餘り
 雪の土手ををせりやうふ死すりともまじまじの下をさてて移んよまて
 るひまじまやせんといふ侍とてまふかの老人より所為をえとて若

農夫頓智借雜圖

卷之中



文治堂



京水筆

長安

四

くりかのつらさを打をんと一打うちけるふ此ひきまやありけん
 本堂不積る雪の片屋根をくるといふは土蔵のやとり不清水がりの池あり
 不和尚をよす小押落さし池小入をよすこの勢ひ小身ハ手翰のごとく池をも
 ちてこえて掘場なる雪小半身を埋めよとまけびつるこも小庫裏の雪をかり
 のるあひづら馳まきり持る木鋤をく和尚を掘いごけまば和尚大に笑ひ身をも
 とつら小聊も疲うけむ耳小掛る目鏡さつごうく不思議の命をまらりのひの
 此時七十余の老僧く前ふりつ何村の人の不幸ふ比ま万死小一生をえんと
 天幸といひつを一齡も八十余ま元病小く文政のまよ小遷化せまき平日余ふ
 示しそらま一ハ我雪類小撞ま一と死筆を採りて居たり一尊き佛經あり一
 ぬえたふゆやハと一字毎小念佛中て書居たりあう小雪類小死まうり一を不思議
 小命助うり一ハ一字念佛の功德まやありけんまば人ハ常小神佛を信心一
 悪事災難を免れんをいのる一神佛を信心心中より悪心ハいぬもの

悪心の无なき災難さいなんをのり第一だいいちことをしんらまき今も猶耳小残まう人智じんちを尽して
 のりまうらざる大難だいにんふあハ因果いんぐわのまうあむ処ところあらん人小死まうりありご
 人家にやの雪類ゆきるいも家を潰せ一軍人いっぐんじんの死するまあま見聞けんぶんまことまこの
 とてあまふ

○玉山翁ぎやまおうの雪の圖ず

されのと一玉山翁ぎやまおうが梓行しりぎやうせま一軍物語いっぐんものがたりの画本えほんの中なか小越後の雪中こえちのゆきなかふた
 うひ一との圖ずあり文ぶん大だい深雪ふかゆきとありくまうも十二月じふにがつのゆらふふあ死する軍兵ぐんべい
 とのが奉止ほうしをえら小雪ゆきハ浅く見ゆあさかみゆ越後の雪中えちのゆきなか馬足うまあしハあつがや一ゆあ小農人このうじんも雪中
 あつら作しやう者のあやうりくあふがく画者えしやも諺ことわざまて越後雪中えちのゆきなかの真景まけいハ甚一くた
 ぐりまうらう画えハ虚そらまま一はまばそのまぬあ死まあふけまごあまうりふた
 ぐひまうら玉山ぎやまの玉たま小瑾きんあらんも惜おしけまばかめて書通しやうつうの交まじりふまうせま牧之まきのが拙つたま
 筆ふでゆて雪ゆきの真景まけい種むねく寫かし猶常なほつねふらるる真景まけいもまると春はるの半なづき一三国さんごく

嶺ふちうた法師嶺のふちうた在る温泉ふ旅りそのあつりの雲を見つるふ高紀
 峯よりあつりさるるふ五七間やさるる四角或は三角なる雲の長さ二三十
 間もあつるとかふふ谷ふちうたさるる上ふるや幾つとあつり大小なるのりさるる
 雲国ふちうたさるる目ゆえその奇観さるるあつりさるるの真景をも其座
 ふちうたさるるを添て贈りふ玉山翁が返書ふ北越の雲我が机上ふちうたさるる
 かおとく目をあつりさるるの圖をさるるあつりさるるあつりさるるを添させ私筆さるる
 例の繪本とさるるさるる其書雲の霏さるるさるるさるるさるる諸国ふ降さるる我が筆下ふ
 在りさるるさるる書翰今猶牧之書笈ふをさるるあり此書さるるさるるさるるさるる泉
 ふ玉山を沈ふ惜さるるさるる

越後縮 あつりさるるの文字普通の俗用ふあつりさるる又あつりさるる詞さるる

縮ハ越後の名産ふちうたさるる世の知る処さるると他国の入ハ越後一国の産物と
 かのあつりさるるさるるあつりさるる我住魚沼那一郡ふちうたさるる産物と他所ふ出さるるあつりさるる

僅ちうたさるる其品魚沼中比さるるさるる縮と唱ふ近來のちうたさるるハ
 此国ふちうたさるる布とのさるるさるる布ハ紵也織る物の総名さるるさるるさるる今も我があ
 ちうたさるる老女と今自ハ布を市ふちうたさるるあつりさるるさるるさるる古言ものさるる東
 鑑を案るふ建久三壬子の年勅使飯落の時鎌倉殿より餞別のちうたさるるをさるる條
 ふ越布千端とあり猶古記ものちうたさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 町殿の營中のちうたさるるを記録せさるる伊勢家の書ふ越後布とのちうたさるる
 と見えさるるさるるさるるさるる縮ハ此国の名産さるるさるるさるるさるるさるるさるる
 りの越後布ハ布の上品なる物さるるさるるを後と次第ふ工を添て糸ふ縷をつよ
 くかけ汗を凌ぐ為ふ縷せ織さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 の模様を織さるるさるる錦をさるる機作中さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

様をもり縮も飛白も甚上手なる種々の奇工をいざり機織婦人
よりの伶俐なりたる故なり

○縮の種類

魚沼郡の内より縮をいざり事一様なる村より出せ出せありあり
自らむりより其品小の事熟練して他の品小移らざる也其所その品を
産む事左のごとく

▲白縮ハ堀の内町在の村々又浦佐組小出嶋組の村々

▲模様るの或ハ飛白りりる藍錆との六塩澤組の村々

▲藍緞ハ六日町組の村々 ▲紅桔梗縮のるの六小千谷組の村々

▲浅黄緞のるの六十日町組の村々又緞の弁慶縮ハ高柳郷小かぎより右

りつても魚沼一郡の村々此餘ちをいざり所二三村ありと専ら小せざる

あはれく舎てあるさび縮ハ右村里の婦女ら雪中小籠り居る間の手業之

おとそ八来年賣(ぎ)ちをいざり十月より糸をうとをいざり次の年二月

より小晒(き)をいざり白縮ハうちえり所ハかりやせりやるる人ハ文あるものやと

あはれいざりとも手練ハよく又あるもの之村々の婦女らちと小丹精を尽

をり多し小冊(ち)ハ尽(つ)く其あまをいざり下小記せり

○紵

縮小用なる紵ハ奥及會津出羽最上の産を用ふ白縮ハのりより會津を用ふ
るんづく影紵といふもの極品也また米澤の撰紵と称するも上品之越後の

紵商人々の国々よりて紵をいざりて国小賣る紵を此国也もといふも

古言之麻を古言ふといひハ綜麻のるの麻も紵も字美ハちと布小

織(か)き料(りょう)の糸(いと)をいざりて紵(ち)をいざりて俗(ぞく)也と字書(じしょ)小(ち)えり

○紵績

余一年江戸小旅宿せり頃或人のいざり縮小用なる紵を績むるの処の婦

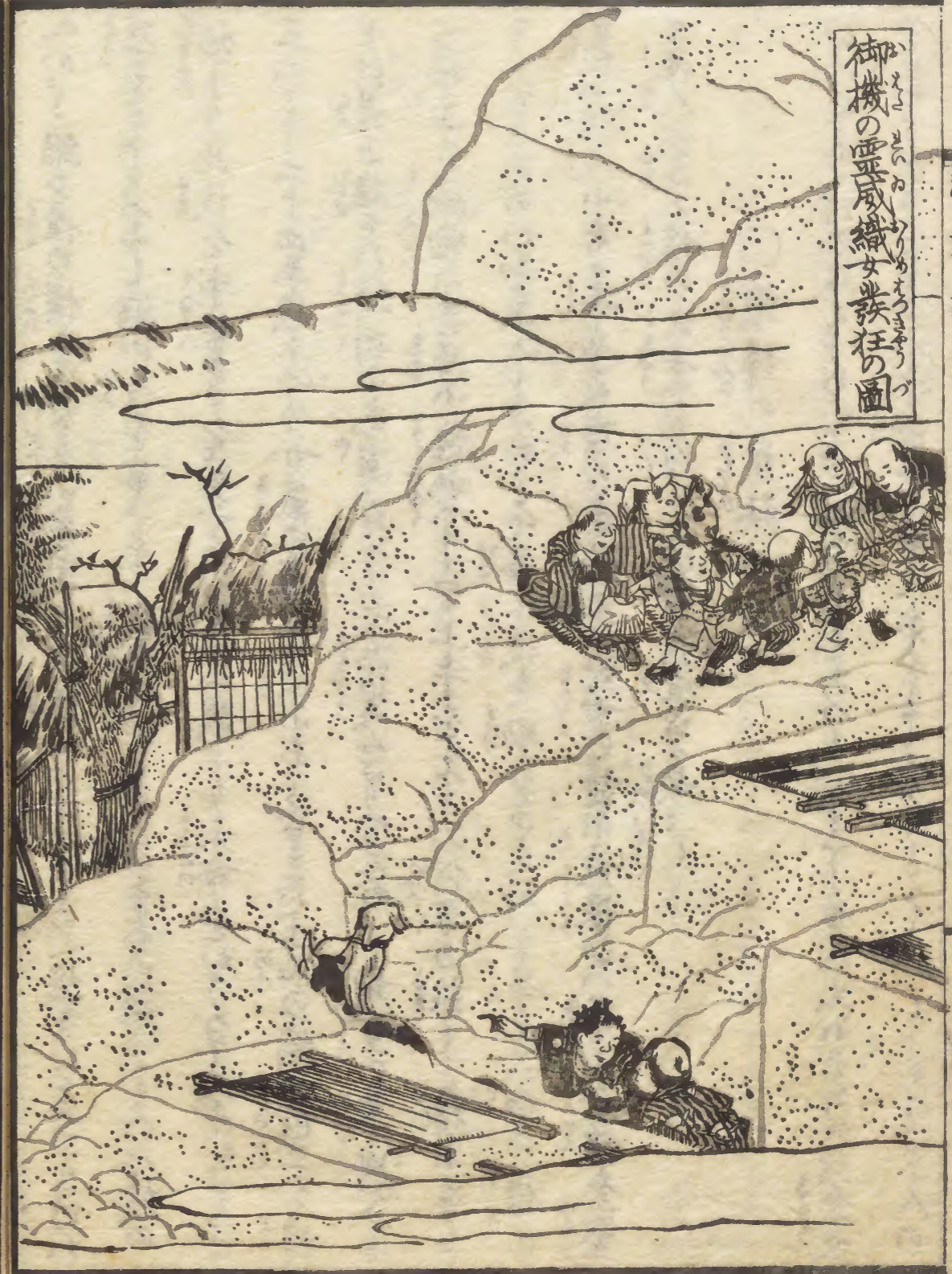
人誘いありて一家小あつまりその家小く用ふる絆を績とて此人たがひふその
 家をめぐりて績と聞かむゆゑにひきつらる人どかす空言をばいひふくけん
 たりまづ魚沼一郡も廣きやゆゑ右やうふまる処もあるんよといありとも
 下品のちぎる小用ふる絆のりるん下品の縮のりハ姑舎に論ぜば中品以上小用
 あるを績ゆらむ所の座をきまらば体を正しく呼呼吸小つて手を動せ
 て為作をる定座小居る假小居て其為作をるせはのり心鎮せし
 系小太細いきて用小ならぐ一常並の人の絆を績ハ唾液を用ふこと
 ちぎるの絆績ゆハ茶碗やうの物小水をくくひくことをもりハ事毎小盥ハ座を
 清めてこそをるまあり

○ 縷綸

系小作るゆも座を定め体を圍位るる績小なる縷綸との道具との手術
 その次第の順その名小呼物許多種あり繁細の事を詳ふせんハくハ

けま言どもくくをるまの手作まづ雪中小在
 上品小用ふる処の毛よりも細き糸を終兆舒疾くあつり雪中小籠り居る
 天然の湿気を得まは為難く湿気を失ハ糸折るりありをまづとと
 かより断るりあり是故小上品の糸をあつる所ハ強き火気を近付む時
 より織る小後て二月の半小ゆり暖気を得て雪中の湿気薄き時ハ大なる鉢
 の物小雪を盛て機の前小置ての湿気をかりて織るゆもありとまづのり小付
 て熟思小績を織るハ蚕の絲ゆ多陽熱を好布を織るハ麻の糸ゆ多陰冷を好む
 さて績ハ寒小用ひく温るるゆ布ハ暑小用て冷るるゆ是ハ天然小阴阳の
 氣運小属する所るんゆ件の如く雪中小糸とる雪中小織り雪水小洒ぎ
 雪上小晒と雪ありて縮ありてまづ越後縮ハ雪と人と氣力相半くハ名産の
 名あり魚沼郡の雪ハ縮の親とる蓋薄雪の地小布の名産あるは
 ハ糸の作り小ゆるる越後縮小比づく知る登

御機之要威織女談狂の圖



京水筆

十

手をかゝる丹精の日敷を歴て又ふ織ありしをさうりやより母が持きてり
 ときと娘ハそく見なく物をあけしをもうらまえてひびた又まばいふし
 夕やどる煤いろの暈あるをまて母まぬいせんうりやとく縮を頼ふあて
 哭倒まけるさよより我狂とありさあぐの浪言をのちりて家内を狂ひする
 を又く兩親娘が丹精しる心の内をまひすて哭ぬる泣けり見る人もあはれり
 てまの袖をぬりけるとぞ友人るふがりのがさりせり

○御機屋

貴重専用の縮をあらふ家の辺りふつり雪をもその心と揃まへ住居
 の内ゆらうさけ烟のふらぬ明りもよき一間をよりく清めあさくさき遊を
 ちたるるべ四方小注連をひきこころその中央小機を建る是を御機屋と唱へ
 て神の在りごとく衆尊ひ織人の外他人をへまを織女ハ別火を食し御機
 小かゝる時ハ衣服をあうとあ塩垢離をとり鹽漱きこころく身を清む日毎

小かくのごとく紅潮をいむ子ハ勿論之他の娘らうを今只誰との御機屋
 を拜ふまのるるさうふりて之至極上手の女ふあままば此をそやを建る子
 らけまバ他の婦女らうごまを羨る比喩ハ階下ふありて昇殿の位をうらま
 かくご

○御機屋の靈威

神ハ敬ふふよりて威をままて六宜なる哉うりその物も守りて敬い信
 ままバ靈あり子空しる人のままてくる草鞋がふ衆人の信せしふより
 てのちくハ草鞋天王を祭りし事五雜組ふんをうりまてや神くま死
 を敬ハ靈威ある冥々の天道ハ人の知を以てをりまてくばらふ前村の娘
 例の御まやふありて心を澄しあまをかりて居たりし小傍の窓をわと
 くとき音あふのあり心ふまことあかあまふよりてひびきあふふをこて
 心を通る男をりし人目の闇もあうりし心ふらとくあまををりて

家の後ふいり窓のゆふ立る男を將て木小屋入ぬ女之娘の母飯り
 來りかきやふ娘のをぬをえとくゆかりあきりふその名をよびけはるの
 木小屋ふきつけん遠驚に男ハ逃奔り娘ハ心顛倒し七身を織するも打志
 おもやふひけりそのま御機ふより織んとあけふ倏急仰向ふ倒れ
 落血を吐て絶入り母此状態を見て大ふかどり泣きやより助け起し
 まづ御をよりいざさめぐふひかりりか氣息あのをよめて死し
 一父ハ同村のふりか家ふ存をよびく一医をよめよき薬をよ
 一かそのあしもろく両親はさくあよりよりをせよう一のども娘の側
 ふ在るまじき一づつ手を束て死を俟のまあふひとり男來りさる
 耻らふまあく人の後座一欲言とてしりげ頭を低て涙をかきけり人
 こをよめい同村の某が次男けり此男かえ膝をまら娘の母ふ對ひ声を
 ひとめくゆかり今いふをうつしゆせん我ハ娘御と二世の約束をま

ゆのこまのやど人なきをえくむとめを誘ひいざしふかん身のうりぬひ
 こまかよのまば逃りしむとめとてか災ありしと聞きつり思ふ
 織しる身をよめて喪きかん機ふかりぬひる御罰をえとまの我
 する罪もまば人いあづびも余処目ふせんハそりまろ一命をうけ
 するてふもるるづりしむとめとて命ふ代りて神ふ御罰を説らん
 するゆも此まもむむとめとて死ぬる我が命をよめいこふをよめい人
 こてよ証人ふこといひつ赤裸ふりて髪をもさな井のゆふをよめい奇
 まるふ水を浴雪の上ふ躰居るゆふやん唱つてけり時一も寒と肌
 を貫くをりふる凍も死まむありまらふとやハさく人まも下めて
 すると知り實もよめい水を浴るゆりけり神明の男
 實心を憐れん人のゆりをも納受すくけんの娘目の覺るごとく
 あづり母をよびけはる痕奇異のかみをさすしむとめの側ふあつりていふ

とりの娘はくまやをさつてふりふりぞとのふ母はくまやのより、りへ
 けさむせおの御機かたせより一六賞あやを一六のちふあむとりの母はあまの
 うと一さふかの男もあせんをふりつりてさつりけんをえびるぬかへ娘
 四五日あるまゝかやで常並つひなみの身ふりけり歳も十七あるかひて聲をと思
 ひをりるをりうらむさかしのひ男が實心まごころ小愛こあいて早速媒まいたの橋はしをこし
 姻えん礼れいもめでたくとのひく程ほどく男子おとこをまうけたり其家そのいへ今猶榮いまさかの神の
 御罰みづらひが夫婦ふうふの縁えんとあり一も奇偶まがひとのさぐ一我われが幼こころうり一時ひとときの事ことと
 筆ふでのつとふ記しるしして御機屋かたせやの靈たま感あはれあるをさつてふさう一むあう一と
 畏おそ下した慎しんむを一

○縮ちぢを晒さらせ

晒屋さらやとてこをそのと業わざとに又ありさ家いえもさうをもあきと掃はきりの
 さう一やハその家の辺わき又程ほどした所ところを見立みだとてふ假小屋かりこやを造つくり物ものをも置お

ま一休息やすみの処ところとを晒人さらひハ男女おとこともうちまりり身を清きよめらり織女おりひめの如ごとく
 さうまハ正月しょうげつより二月中にげつちゆうの為業わざハ此頃このころハりまど田いりも圃ほも平一面ひらいつらの雪ゆきの上うへを
 こもこの上うへをさう一場ばとをさうあり日の内ひのうちにさう一場ばを踏ふへ一さ処ところをさ
 手頃てぐらの板いた柄へをつけり物ものも雪ゆきの上うへを平ひらくさう一むく一かきさむハ夜
 の間うち凍こつぎえさう一さ処ところのまゝ岩いわのごとくもあるゆゑ晒場さらばハ一点いんの塵ちりも
 あくせさむハ白砂あらしの塩漬あけのこ一さ白しろちとハかりかり一さまをさうハ餘よの
 ちぢハ糸いと小こけり一さを撈たふくけてさうまその撈たとハ細こき丸まる行ゆきを三四尺さんしゆせきやとのら
 ふりてその弦つづみ糸いとをうけ撈たまらハ半なふりけり一ささうハ白しろちとハ平地へいぢの
 雪ゆきの上うへもさう一又高さ三尺さんせきあまり長さハ布ぬいやどふな一横幅よこたハ勝手かたて小こまうら
 せ土つちまのやう小雪こゆきやうつりその上うへもさう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一
 一せさむハ物ものも踏越ふみこてちぢをけりさうまその撈たをさう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一さう一
 こもその場所ばしょの便利べんりもさう一さう一さう一一定いぢさう一さう一晒さら一さう一縮ちぢハ糸いと系けい

雪中晒縮圖 此處入て 皆雪の上へ



○医師
雪舟小
病家



あもあも一夜灰汁あいくに浸ひすに明あけの朝幾度あさも水みづ洗あらいひ絞しぼりあげてあのごとく
きしきし 貴重きちゆう専用の縮ちぢみをきしきしにあのりくせび別わかれしきし
場ばをゆるげゆるげふ心こころを用ひくさるる御機おんきをわすれ同おなく我國わがくにあくハ
地中の氷こほり気き雲うみのふふ奔動うごするゆや雲中うみの雨あめまきまき春はるいこもくもく
件くだんのごとく日ひふささき晴はのつづく事ことありき灰汁あいくひびくはささき毎日まいにち
かろくろをうりて幾日いくにちを歴へて白しろくをうりてのちきりしをるる中なかえさしをい
らんこまる白しろちりしをささきひをりく朝日あさひのあつくと昇ありて玉屑たまご平上へいじやうふ列りく
水晶すいしゆう白布はくふ小紅映せうえいく景色けしきのふたごがかり光景かりハ雪ゆきふまき暖国だんこく
の風雅人ふうがじんふふをうくどかありて凡たゞちを晒ひす種くさの野為のゐあまももるあ其
大畧たいりやくをちるのり

○縮ちぢみの市いち

市場いちばとちちこの市いちあまふりて堀ほりの内十日町うち十日町小千谷せぢや塩澤しほざきの四よ所しよと

初市はついちを里り言げんふきこめあれたるの雪ゆきぐとひの簾まきの明あをのふ四月しがつのちとあ有あり
堀ほりの内うちよりそとむ次つぎふ小千谷せぢや次つぎふ十日町じふにち次つぎふ塩澤しほざきゆがまも三日みかづ間あひだを置お
てあり一定の年ねんより右みぎ四よ所しよの外ほかハ市場いちばの十日町じふにちハ三都さんと兵へい服ふく問屋もんやの定ぢやう
宿しゆくありて縮ちぢみをさく小買こみ市いち日ひハ遠近えんぢんの村むらより男女おんなをわらわす所ところ持もちのちとふ名な
所ところを記しるす紙し箋せんをつけく市場いちば小持こもちよりその品ぶつを買か入いふふせて賣う買かひの直ぢやう
段だん定ぢやうは鑑かん符ふをこころその日ひ市いちをさく金かね小換こかふもそ半年はんねんあまの縮ちぢみのち
小辛こしん苦くあつた此こゝ初市はついちの為ためりて縮ちぢみ賣うはさくことふ那なるもの人の憐あはれをうて
せ足せあしを踏ふき肩かたを磨こす万まんの品ぶつもさる小店せうてんをさく人物じんぶつを賣う遠とほく来きりさ
のハ宿しゆくをもちむもわさ家いえ毎まい小人こじんつとひ香かう臭く師しの看かん物ぶつ藥やく賣うの并なら古ふる人
の足をとめて錐こしをさく形かたちもあねやうと此こゝ初市はついちの日ひ盤ばん花はなの地ぢの染ぞめ鏡かがみ
あもをさく劣せうだ右みぎ小千谷せぢやの市いちをりてのちも在あり毎日まいにち問屋もんや来きりてちちをさく
十七日じちふたななより翌あした年の初市はついち縮ちぢみの精しやう練れんの位ゐを一番いちばん二番にばんとの價あひの高たか下ひだりもそハ定ぢやう
まを冬ふゆにちち縮ちぢみの精しやう練れんの位ゐを一番いちばん二番にばんとの價あひの高たか下ひだりもそハ定ぢやう

とるつものまじりのまじりておけりてあるまじ

○雪中花水祝ひ

魚沼那の内宇賀地の御城の内の鎮守宇賀地の神社ハ本社八幡宮之上古
より立せりてと縁起文多けりて不省く靈驗ありてあるも八番く世ふある
処より神主官氏の家ハ貞和文明の頃の記録今ハ存せり當主ハ文雅を好
吟詠も富り雅名を正樹とて余も同好を以て文を修ひ幣下と唱り社家
も諸方ハおまじりてある大社此神の氏子城の内ハ要をむえ又ハ塔をとりて
ゆも神勅とて塔ハ水を賜りて花水祝ひといふ毎年正月十五日の神更に
新婚ありつゝ家毎ハ神使をとりておまじりて黄昏ありて
時もあり友人嘿奇論曰城の神ハ花水祝ひといふハ淡路宮瑞井の井中ハ
多蓮花の落る祥ありて日本紀ハ又えりて瀬鏡とて花水の号とて
起立ありていふまじりて新替の塔ハ神水を汲りて當社の神更とて

當日新替ありつゝ家ハ神使とて百人ハ百姓の内田家門地の輩神使を務りて
家定めありてその中ハく服忌ハくく暮る者家内ハ病人ありて縁類ハ不祥
ありての皆除くしとて家内ハ故障あり平安無事あり者を撰び神更の前
の朝神主沐浴戒一府服をつけり本社ハ昇りてをびりて名をまじり
て御圖ハあげ神慮ハ任りて神使とて神使ハ當りて人潔斎して役を勤む
を大夫といふ嘿奇論曰とておまじりて浄行とて當日正月神使本社を出るその行
装ハ先狭箱二本道具是臺笠立傘弓二張薙刀神使侍烏帽子素襖次ハ太
刀持長柄持傘さかか供侍二人草履取跡鎗一本とておまじりて神更ハ次ハ氏
子の人ハ大勢麻上下ハ随ふか行装ハく新替の家ハいりておまじりて以
前雪中の道を作り雪ハ山とてのやうなり所ハ雪を石壇の中ハつくり或ハ
雪ハく棧とておまじりて処を作りて見物のたよりとておまじりておまじりて
費とておまじりてその家ハく家内をくく清めとて其日正殿の間とておまじり

花水祝浴水畧圖



堀の内驛花水祝の
噪劇の図原本の
草画を此に載て
別小至細の圖を
示さるものハ

梓刺の勞と
省在り

梅まきとまむと
このちやそまも
水を注ひ
堀の内を

山東廣島

鈴木牧之画

十九
八
三
六
式

の談柄小具なるもの

○菱山の奇事

越後の頸城郡松の山二庄の総領事許多の村落を併合する大庄とつゞきも山間の村落ゆへ一村の内としりも平地なりとて松代との入野の平地にて農家軒を連れ外番の諺ふをえり松山鏡とのふ此地とのうらひふあり鏡が池の古跡もふあり今ハ池もあめりうら埋りてその跡もくのみまより接する松山がそのうらひハ鏡破の繪巻とのものを原とて作るなりん此まきねゆる右の松の山の事見るとりさて松の山の庄内ハ菱山といふあり山の形三角なるゆゑの名もふり山おちうた処ハ須川村川ふよりて當蒲村といふあり此ハ山毎年二月ふ入り夜中ふかざりて雪顔あり其びき二里ハ聞ゆ傳てり白髪白衣の老翁幣をもちてるるふ乗り下るとのふまに此うらひ須川村の方二丁町余の処直下突下も年ハ豊作之當蒲村の方ハ

斜ふてり年ハ凶作之其驗少も違ふ事なり年ハ豊山雪顔ハ係る事此山ハのと限るも一奇事とのふり

固ふり余ハ旧友寺泊小住丸山氏の家祖父ハ博学の聞えあり人なりき余二十年前丸山氏の家ハ遊節をとめ一時祖父が宝曆の頃の著述とて越後

後名寄とのふ書をつんせとてハ三百卷自筆の寫本ハ名寄といふとて越後の風土記なり一国の神社佛閣名所旧跡山川地理人物国産薬品の類すべてを部を分圖をいづて通曉しゆてくる精撰と此書ハ右菱山の説も粗とえり

どさのふとて引む菱山のふをのふふつとて此書の事をいひてててから精撰大成の書も空秘笈ふありて世ふあつて惜けむふり

○秋山の古風

信濃と越後の国境ハ秋山といふ処あり大秋山村といふを根えとて十五ヶ村をまぐる秋山といふと秋山の中央ハ中津川といふありて

西ふ十五ヶ村あり東の方ふ在る村ハ
 ●中越後ふでくも ●清水川原村人家三軒あり
 ▲中ハ信濃ふでくも ●三倉村人家三軒 ●中の平村二軒 ●大赤澤村九軒 ●天淵村二軒 ●小赤澤村八軒 ●上の原十三軒
 ▲和山軒西ふあり村 ●下結東村 ●逆巻村 ●上結東村九軒 ●前倉村九軒 ●大秋山村
 人家八軒ありて此地根元の村あり相傳の武器を所持しありて天明卯羊の凶年ふ代りててふふろえ種をて一村のこも餓死を今ハ草原の地となりてときりり
 ▲屋敷村十九軒 ▲湯本温泉此地東ふ八苗場山天ふ登えと連岳とふつぎ西ふ赤倉の高嶺雲を凌て衆山とふ双ぶ清水川原越後の入り口湯本ハ信濃ふ越の險路ありて一夫是を守且六万卒も越え難き山間幽避の地と里俗の傳ふ此地ハ大むり平家の人の隠る所といふ牧之謂り鎮守府將軍平の惟茂四代の后胤奥山太郎の孫城の鬼九郎資国が嫡男城の太郎資長の代まで越後高田の辺鳥坂山小城を構一國小威を震ひ謀叛の聞えありて鎌倉の討手佐木三郎兵衛入道西念と志く戦ひて終小落城せり此時貴族の落人なる此秋山小隱とてらんり里俗の傳ふ平氏とるもよりあるふ似たり此秋山

み古の風俗のつら残まりと聞ゆ多一度ハ尋ねるとかひ居りふ此地をよくありたる案内者を得たりゆ多偶然ありて案内が教ふまうせ朱味増醬油難節茶蠟燭までを用意して従者ふりせと立いでハ文政十一年九月八日の事なり死その日ハ秋山小近き見玉村の不動院ふ一宿次の日桃源を尋ねる心地て秋山小ふ入りぬま入り口ハ清水川原とのありてみいんとする道の傍ふ丸木の柱を建注連を引こて中央ふ高札ありたる事ぞと立よりてまば小童のくまてるやうのいろは文字めて「わのそあむくこののハこまよりいしと」トあるせり案内曰秋山の人ハ痲瘡をおとる事死をおとるが如しゆんとするまばゆをうせうするものあまは我子といふも家小尋せせ山小假小屋を作りて入せむき食物をそびやうのそまてり錢あるものハ里より山伏をこのそ祈らまもありまは九人ふて十人ハ死せる此のま小秋山の人他所ゆきとてうせうありとまは何事の用をも捨て

逃くことさるる此地ゆへに地瘠る者甚と稀と十年ふ一人あるなりと語り
 さて清水川原の村ふゆるいふ家三軒あり（家屋の作りさる地野ふらなり） （その下ふらなり） （あはれ）あ
 ふやまのひく立中ふとまよりまが猿橋を見玉とて案内の前立より此
 秋山の道はまが所の人のふらふらとて道のまが牛馬のさるふはら
 りる所のまがとてまが道狭く小径とて深くしてやうく道をのまが所まが
 りのかくてうの中津川の岸ふゆるり岸の對ひ逆巻村ふゆる所ふ橋あり猿
 飛橋とのふ橋のまがをさるふよりや猿ゆも翼ありまが飛べくまあはれ西岸ハ
 絶壁ゆへ屏風をさるまが如くまがも岸より一丈あり下ふ西岸よりま
 りひふら岩の鼻ありまがをさるまがとて橋を架くまが橋あり下らん為ふ
 橋をまがけてあり橋の直る丸木を二本あり細木を藤蔓ゆまがつけまが
 渡りハ二十間あり橋の廣さハ三尺ふらまが欄干ハゆより作らば橋を渡りて
 對ひの岸ふ藤綱を岸の大木ふら下げありまが継りて岸ふのまがまが

まがまがまが危けまが芭蕉の蝶も居直る筈の上とりの木曾の棧中まが
 少む此橋を渡るゆとりの案内のまが今日此岸ふまが東の村まが
 玉ひく小赤倉村ふゆる玉程まが道まが小赤倉ふ知る人もあはれ病
 をまがとてまがの橋をまがまがまがまがまがまがまがまがまが
 橋を寫しまがとて四辺をまがまが行雁峯を越て雲ふ字をまがまがまが
 まが水ふ画を寫し奇樹崖ふ横よりて意の眠るまが如く怪岩途を塞ぎまが希
 の跡をふゆる山林ハ遠く深く錦を布き碕水ハ深く激して藍を流せり金
 壁双び緑山連りまがまが画中まがまがまが光景の目まがまがまがまが
 農夫二人まがまがの農を脊負くまがの橋をまがまがまが岸ふまがまが
 まがまがの橋を石壇のまがまがまがまが橋をまがまが平地のまがまが
 橋揺くとて危まがまがまがまがまがまがまがまがまがまがまが
 うの藤綱ふまがまが岸ふのまがまがまがまがまがまがまがまがまが

足を灰のろろ入珍めづりて喰くふ所ところ六柱むつちゆう中なかもろろ太おを惜おぼ気けもろろ
 焼やころろ火影かげ小照せうをろろ末すえのむとろろ色いろ黒くろく肥と太おりて醜みにくくをろろ裾すそをま
 けりあげん虫むしをひろろ足あしをけりて恥はらはままもせび二人ふたりの姉あねハ色いろ白しろく七玉ななたま成
 双ふたごなる美人びじんと菓子かしを喰くろろ顔かほ又またあありて打うち多おほく面おもざり愛あ形かたちハはろろ
 之これかろろ一双ふたごの玉たまを秋山あきやまの田夫でんぶと妻つまふせんハ可あま憐れい琴ことを新あらたとて蠶いとを煮にろろ婢こ主人しゅじんハ
 里地さとぢの事ことをもろろ知りて話かたも分わかる箱はこの所ところの風俗ふうぞくをろろ秘ひろろふふのの語ことばり
 あろろろろをろろ小記せうきを○此地このち近年こうねん公税こうぜいを聞きふふるるも米麥こめむぎを生なせせるるゆゑ
 僅わずかの貢こうをろろろろ御役ごやくふろろ信濃しんのうと越後えちごとの他ほかの村名むらな王おうの支配しはいをろろけ且かつ那寺なでらでら
 をも定さだめめるるも冬ふゆハ雪ゆき二丈餘にじやうじよもつろり人ひとの死しももああるるゆゑゆゑ此時このとき人ひと死しままるる寺でら小
 送おくるるゆゑゆゑ此村このむら小山田こやまだを氏うぢとす助三郎すけさぶろうとの家のいへ小こりり持傳もちでん
 する黒駒くろこま太子たいしと称なづかる画軸えがきありてを借かりて死人しにんの上うへを二三にさんべんべんをを引ひ導ごう
 くと私こゝろ小葬こさうる寺でらををささるるゆゑゆゑせんせんハハむむろろよりよりここををゆゆくくははまませせりり 秋山あきやまハ山田やまだ
 と福原ふくはらの

氏うぢのの右みぎの助三郎すけさぶろうハ山田やまだの徳本家とくほんけ之の太子たいしの画像えがとといいふふるる馬うま小このり
 て雲くもの中なか小こののきぬ地ぢののようようりり牧之助かぢのすけ三郎さぶろうハ家いへ小このりりのの一軸いちじやくををええんんとといいふふるる正月しょうげつ七
 月のづきののややををままるるゆゆゑゆゑ○此地このちの人ひと上食かみくひハ粟あわ小こ稗へい小豆まめをも交まて喰くふ下食かみくひハ粟あわ糠ぬか小稗へい
 乾菜かんでろろろろままて喰くふ又また枳かきの實みを食くふ○婚姻こんいんハ秋山あきやま十五じふご村むらををままるるゆゆゑゆゑ
 て他所たつとふふののゆゆりり婦人ふじん他所たつとゆゆりり男おとこををりりて親族しんぞく不通ふつうとて再また面會めんかいせせるるををむむり
 よりの習なせせとといいふ○秋山あきやま中なか小寺院せうじやういんハハささららとと庵室あんしつもも一ひと八幡はちまんのの小社せうしゃ一ひとあり寺でらな
 きゆゑゆゑ無筆むひつとといいふ○心こゝろああるるものもの里さとろり手本てほんを得えてていいろろははゆゆををかかむむるる人
 をバ物識ものしとて尊敬そんけいを○山中やまなかゆゆりり牧屋かぢやををりりててののままとといいふ○深山ふかやま幽僻ゆうへきの
 地ぢののままとといいふふるるゆゆゑゆゑ木綿こゝろをも生なせせるるゆゆゑゆゑ衣類いるいふふとといいふふるるゆゆゑゆゑ○山やま小
 けりりのの草くさありりててのの皮かわを製せいして麻あさ小替こかへて用もちを為なす○箱はこががくくるるゆゆゑゆゑ時牧ときかぢ之
 けりりのの形かたちををろろろろくくままるるゆゆゑゆゑ石いし小こ柴しばををろろろろくくままるるゆゆゑゆゑ草麻くさあさのの事ことろろろろくくままるるゆゆゑゆゑ草麻くさあさハ
 本草ほんぽう小こええるる草くさのの名なハ麻あさのの字あざ小こ熟じやくとといいふふるるゆゆゑゆゑ麻あさ小替こかへても用もちとといいふふるるゆゆゑゆゑ草麻くさあさハ
 まど毒草どくそうありりとといいふふるるゆゆゑゆゑ又また山やま韭いとといいふふるるゆゆゑゆゑ同書どうしよふふるるゆゆゑゆゑ麻あさののろろろろくくままるるゆゆゑゆゑ

秋山絶壁の圖



同猿飛橋の圖



牧之画

畏小入りの寐圖



京水筆

雪堂の圖



行手譜百卷之中

九八 文溪堂藏

三言米三ロ

二言室菲

狐火ハ玉のひるる中もあふびりー狐の玉との物の光ると常小又狐火と
別るべし

○狐を捕る

友人曰我親しき者隣村一夜話小往る飯る途の傍小茶館ありー頃
も夏の予こーも多農業の人の置忘とてうんまも腹悪きのハ拾
ひ隠さん持飯りて主を尋ねやと鑑を予小まげて二町をりあやこー小まきり小
重く有り鑑の内小声ありて我をゆりて連行せし小小膽を消し鑑をまきり
逃まりー小狐前小入り草の中へ入りーと入りこふと二時の戯とる
アーくく妖魅の術ありあや人小欺きて捕らるる如何余答てハ鏡炮を以
てまら論り一番餌を以てまらハ人人の欺くを知らずも怒を捨て慎むるあ
はむをまらハ知りあやこを喰ひて反て人をあやむんて捕らるるん
こは邪智ありあやあ之豈狐のまらんや人も又是小似たり邪智ありものハ悪吏

とハありあやかく為ハ人ハあやまらこ己ハ邪智をうらも終小身を亡れし
怒も賊怒も怒ハいづも身を亡れし番餌之至善人ハ路小千金を視室小美人と
對をまらこも心妄小動ぎハ止ることを知りて定るるあやあか人ハ胸小明
鏡ありて善悪を照し視てよまあまを知りて其獨を慎む之を明德の鏡と
此鏡ハ天道さぬより誰ゆりて与ハあやまらも魔をまらてこまらこ若かり
時ある經学者の教小聞しと狐の話つげ大学の蹄小けハ風諫せしハ問ひ
人弱年ゆてあやも身ゆらとのまらこり者らまらりまらこハ无用の長舌
まらこいひいまらこ小まらこまらこまらこ我ハ里ゆて狐を捕る術まらこあ
ら小手を懐小して捕る術ありての術いんとのまらこ春陽の頃ハつりー雪も
昼の内ハ軟るるゆあ夜まらこ狐の徘徊する所ハ春杵を雪中へさし入てニッ
も三ッもまらこけの穴を作りかけハ夜小入りて此穴も凍りて岩の穴のまらこあ
まらこまらこ好く油液まらこをちりーまらこの穴ゆも入はかこ夜まらけ人静り

